

病名： \_\_\_\_\_ 特発性顔面神経麻痺

**症状：** 病名の通り、ある日突然に顔面の筋肉をうごかさず神経が麻痺する病気です。  
顔面半分の動きが鈍くなったり、全く動かなくなり、水がこぼれたり、目が閉じにくくなります。

同じ側の耳や頸部の神経痛を伴うこともあります。

耳がつまった感じ（難聴）がおこったり、耳鳴り、めまいを伴うこともあります。

**病態：** 急激な顔面神経機能低下を起こした状態です。ヘルペスウイルス感染（再燃）や循環障害（疲れが誘因）で起こることがわかってきました。

**合併症：** ①内耳機能低下

顔面神経は耳のすぐそばを走向するので、内耳の機能低下（難聴、耳鳴、めまい）を一緒に起こすことがあります。

②三叉神経痛 顔面神経の隣にある神経と一緒にヘルペスがつかると、耳～頸部の神経痛が起こります。

**治療：** 安静療養・抗ウイルス薬・ステロイド治療が重要です。

①**安静：** 全身と神経を休ませます。神経の回復は、発症後1週で始まるのが普通です。

②**ステロイド** (神経のダメージを元に戻すための薬) 大量投与/漸減療法

投与方法) 日中4～8時間、500ml (ボトル) 1-2本の補液剤に混じて点滴します。

日々徐々に、点滴内ステロイドの量を減らしていきます (漸減療法)。

約2週間で点滴治療は終了します。その後は内服治療に切り替わります。

副作用) 胃痛、血糖上昇、カゼをひきやすくなるなどの副作用が起こることが

あるので注意が必要です。時々、血液検査で副作用のチェックを行います。

③**抗ウイルス薬：** 内服ないし点滴—軽症であれば内服を。重症であれば1日3回の点滴

④**細胞賦活薬**の点滴、注射、内服：ビタミンB12、およびATPという注射薬を使います。

⑤**抗めまい薬**の内服 めまいを合併すれば使用します。

⑥**神経痛**の治療

鎮痛薬と神経痛の薬 (テグレトール) を内服します。我慢すると、一生後遺症として、残りやすいので、しっかりと鎮痛することが大切です。

**検査：** 肝炎ウイルスの検査を行います。潜在的に肝炎ウイルスをお持ちの場合、治療によって肝炎ウイルスが活性化することがあり、その素質がないかを検査します。

場合により、内科への受診が必要のことがあります。

**補足)** 治療中に疑問に思ったことは、ただちに医師、看護師に訴えることが大切です。

何でも遠慮せずに、お申し出ください。

・治療中、行ないたくない治療などいつでも患者さまのお申し出により中止することができます。